

2018年9月16日(日)朝10:10 主の聖霊降臨節第18 自由交歓会等  
9月第3共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：天使の証言;主の来臨の約束

聖書:ヨハネの黙示録 22章10～17節

＜口語訳＞

新約聖書409頁

ヨハネの黙示録 22章10～17節

＜新共同訳＞

新約聖書479～480頁

ヨハネの黙示録 22章10～17節

＜新改訳第3版＞

新約聖書502頁

ヨハネの黙示録22章10～17節

＜塚本訳＞

新約聖書824～825頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」、神の御子イエス・キリスト様が、長老・使徒ヨハネに啓示の「神の国の奥義」、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代の事。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝、大讚美、6～13章は、聖徒、天使と龍、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、神無視の人々の裁きと信仰者への忍耐、15章は、金の怒りの鉢の神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、獣の座の暗黒の裁き、ハルマゲドンでの龍と獣と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、仔羊の勝利、18章は、バビロンの滅亡宣言と哀歌、19章は、大群衆讚美・長老らの礼拝、仔羊婚姻への花嫁の招き、神の大宴会、ハルマゲドンでの神の大勝利、20章は、サタンの千年間の幽閉、殉教者らの復活、千年間王座、サタンの滅亡、死と陰府の葬り、21章は、花嫁と3つの聲、都形成と生活基盤、22章6～9節が再臨と戒め啓示。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第22章10～17節から  
主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録22章10～15節；ヨハネは、主のことばを語った天使による神の命令と約束を知らされました。

◇22:10～15；塚本訳；天使の命令とイエスのことば

「10 彼はまた私に言う、『この書の預言の言を封ずるな。(審判の)時期が近いから。

11 不義をする者はなおも不義をして居れ。穢れた者はなおも穢れて居れ。(しかし)義なる者はなおも行って居れ。聖い者はなおも聖くして居れ。』

12 (イエスが言い給う、)『視よ、私は直に来る。行為に応じて各人に与える私の報酬も私と共に来る！

13 私はアルパまたオメガ、最初また最後、初また終である。

14 幸福なる哉、生命の樹に行き(その実を食い)、また(聖なる)都の門に入る権を得るために、その上衣を洗う者！

15 (しかし都の)外には(この権を有ため穢れた) 犬、魔術を行う者、淫行の者、殺人者、偶像礼拝者、すべて虚偽を愛しまた行う者がいるであろう。」

◇ 10～11節;「彼(天使)」は、「私(ヨハネ)」に言う、「『この書の預言の言を封ずるな。(審判の)時期が近いから(10)。不義をする者はなおも不義をして居れ。穢れた者はなおも穢れて居れ。(しかし)義なる者はなおも行って居れ。聖い者はなおも聖くして居れ。』(11)」。

⇒(最後の七つの災厄が盛られた七つの鉢を持つ七人の怒りの)天使は、再び厳しいことを語ります。

⇒ヨハネ黙示録21章1節～22章5節まで、天の「新天新地、新しいエルサレム」、宝石を使った都は、「新婦」とも呼ばれましたが、ヨハネ黙示録22章6節以降では、ヨハネの視点を地上に戻し、「主の再臨」に天使は向けさせます。厳しい現実がそこにはあります。

⇒『**不義をする者はなおも不義をして居れ。穢れた者はなおも穢れて居れ。(しかし)義なる者はなおも行って居れ。聖い者はなおも聖くして居れ。**』は、『**この書の預言の言を封ずるな**』とのに**天使**よる主の命令の核心部分で、主の福音のアイロニー(皮肉)です。

⇒**神の思い**は、「**義なる者はなおも行って居れ、聖い者はなおも聖くして居れ**」ですが、罪人である人間は、罪の現実を知っていても、それを行えず、「**不義をする者**」、「**穢れた者**」であり続け、**神**に逆らう生活を繰り返すのです。

⇒塚本訳では、「**しかし**」が、「**不義をする者、穢れた者**」と「**聖い者はなおも聖くして居れ、義なる者はなおも行って居れ**」との間に挿入されていますように、人の「**しかし**」ではなく、**神**の「**しかし**」で生きることでは、主の**思い**に従って生きることができないのです。

⇒私たちは、本質的に罪人です。**神の口から**で**神のことば**が、罪人をも生かし、造り換えて下さるのです。

◇12～15節;「私はアルパまたオメガ、最初また最後、初また終である」の「(イエスが言い給う、)『視よ、私は直に来る。行為に応じて各人に与える私の報酬も私と共に来る』と語られ、「生命の樹に行き(その実を食い)、また(聖なる)都の門に入る権を得るために、その上衣を洗う者」は、「幸福なる哉」と宣言し、同時に「(しかし都の)外には(この権を有たぬ穢れた)犬、魔術を行う者、淫行の者、殺人者、偶像礼拝者、すべて虚偽を愛しまた行う者がいる」と、嘆いておられます。

⇒「私はアルパまたオメガ、最初また最後、初また終である」は、ヨハネ福音書1章1～5節と呼応し、天地創造をことばで始め、また、「**新天新地**」の創造も、主のことばで始まるのです。

⇒天からの啓示とは、「**幸福なる哉、生命の樹に行き(その実を食い)、また(聖なる)都の門に入る権を得るために、その上衣を洗う者**」で始まり、「(しかし都の)外には(この権を有たぬ穢れた)犬、魔術を行う者、淫行の者、殺人者、偶像礼拝者、すべて虚偽を愛し

**また行方者がいる」**で終わっています。  
⇒地上の教会の牧会で苦勞する**長老ヨハネ**に、  
**神**は思いを寄せつつ、語られます。

◆ **黙示録22章16節** ;ヨハネは、御霊による  
**天使派遣命令**と**輝く明けの明星の自己啓示**  
を知らされました。

◇ **22:16**;塚本訳;イエスのことば

「**16 私イエスが(諸)教会についてこれらのこと  
をお前達に証明するために、私の使いを  
遣わしたのである。私はダビデの根また裔、  
輝く暁の明星である。』**」

◇ **16節**;再度、主の自己啓示です。

⇒「**私はダビデの根また裔、輝く暁の明星で  
ある**」は、「**救い主**」の自己啓示で、「**私  
イエスが(諸)教会についてこれらのこと  
をお前達に証明するために、私の使いを遣わ  
したのである**」と。

⇒「**天使**」や「**預言者たち**」を派遣されたのは、主  
ご自身が、「**罪からの救い主**」として、天地の  
初めから働き、人間の始めであるアダムと  
エバの罪の深刻さも、十字架の死を通して

味わい、死人のからの復活、昇天、天での栄光の御座の着座めでの罪からの贖いを「**証明する、証しする**」ためだと語られます。  
⇒主イエス様の地上の営みは、人間の執拗な罪との戦いで、十字架の死による贖いしか、**神の御子**には、残されていなかったことを「**証明する、証しする**」ため、語っておられる。

◆ 黙示録22章17節 ;ヨハネは、花嫁による主の来臨の願いのことばと、御霊による**渇く者へのいのちの水の提供宣言**を知らされました。ヨハネ自身も、第3の聲となり。

◇22:17;塚本訳;御霊と新婦の言

「17 すると御霊と新婦とが(答えて)言う、『**来たり給え**』と。聞く者も(また)『**来たり給え**』と言え。渇く者は来い。望む者は無代で生命の水を受けよ。」

◇17節;「**救い主**」は、「**御霊**」として働き、本質において罪の生活をする者を「**新婦**」と再び呼んで、「『**来たり給え**』と。聞く者も(また)『**来たり給え**』と言え」、「**渇く者は来い**」、「**望む者は無代で生命の水を受けよ**」と。



⇒「**新婦**」なる教会も、「**御霊**」と思いを1つにして、「『**来たり給え**』と。聞く者も(また)『**来たり給え**』と言え」、「**渴く者は来い**」、「**望む者は無代で生命の水を受けよ**」と叫んでいます。「『**来たり給え**』と。聞く者も(また)『**来たり給え**』と言え」が、2重括弧で、後半は、2重括弧がありませんので、**KK先生**は、先の「**聞く者**」を「『**来たり給え**』」という「**御霊**」の聲に応じて答える「**新婦**」で、「『**来たり給え**』」も、叫んでいるとし、「**ヨハネ**」も、第3の聲として、**ヨハネ**が牧会しているアジアの教会(一般信徒)にも、「**渴く者は来い、望む者は無代で生命の水を受けよ**」とのメッセージのことばを送っている聲であると理解しておられます。

⇒結局、**天使**が**10～11節**では、**真実**を込めて告知し、「**12～15節**と**16節**では、**イエス様**が語られ、**17節**では、「**御霊**」、「**新婦**」、「**ヨハネ**」の3つの声が、**イエス様の語りかけ**に応じて叫んでいるのです。

⇒**ヨハネ**は、**天使**の告知を受け、**天使礼拝**の過ちに気づき、**天使の主の来臨**に**聴従!!**

## 結論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」、神の御子イエス・キリスト様が、長老・使徒ヨハネに啓示の「神の国の奥義」、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代の事。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝、大讚美、6～13章は、聖徒、天使と龍、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、神無視の人々の裁きと信仰者への忍耐、15章は、金の怒りの鉢の神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、獣の座の暗黒の裁き、ハルマゲドンでの龍と獣と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、仔羊の勝利、18章は、バビロンの滅亡宣言と哀歌、19章は、大群衆讚美・長老らの礼拝、仔羊婚姻への花嫁の招き、神の大宴会、ハルマゲドンでの神の大勝利、20章は、サタンの千年間の幽閉、殉教者らの復活、千年間王座、サタンの滅亡、死と陰府の葬り、21章は、花嫁と3つの聲、都形成と生活基盤、22章6～9節が再臨と戒め啓示。

◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇ヨハネ黙示録22章10～17節は、9節で、輝いている天使を見て、思わず、「天使のその足下に平伏し」、天使から、『(いけない、)するな！私はお前や、お前の兄弟である預言者達や、この書の言を守っている人達の同輩である。(私を拝むな。)神を拝め。』と語ってもらうまでは、自分の過ちに気づかなかったことをヨハネは教えています。

⇒老練な長老ヨハネさえも誤った尊敬と礼拝をしましたが、10～17節では、「主イエス様のことば」を聴き、天使の真実な証言にも、謙虚に耳を傾け、17節の「イエスのことば・御霊」の心に感動を与える叫びの第1の聲に応じ、「新婦」なる教会の第2の聲も聴きつつ、今、感動をもって、老練ヨハネが牧するアジアの教会・一般信徒へ第3の聲として「渴く者は来い、望む者は無代で生命の水を受けよ」との真実のメッセージを語っています。

⇒「新婦」は、ヨハネには、先に殉教した聖徒で宝石で着飾っており、ヨハネを筆頭と地上の教会は、第3聲で、「御霊」の叫びに応答する。